

教室で使える レポート作成



教室で使えるレポート作成

平成31年(2019年)3月発行
制作/札幌市教育委員会
表紙デザイン、イラスト、編集/栗田マサキ

はじめに

多くの生徒は「レポート作成」にとっても苦労しています。










それらの苦労にはさまざまなケースがあります……テストの点数が良いのでレポートはあまり意味がないと思って適当に切り貼りして書いて出した。余裕でいけると思っていたけど、課題範囲が広すぎてテーマが決まらず、結局前日に始めていかげんに書いて出した。盛り込みたいことは分かっているはずなのにうまくまとめられず……友達に読んでもらった「なに書いてるのか分からない」と言われた。すごく情報を集めたのに肝心なところが抜けていると指摘されてガックリ。半分以上書いた段階で「論理に矛盾がある」と言われてやり直し。テーマを最初に決めただけ、何となく気に入らず、途中で「こっちのが良い」と思ってテーマを変えたら最後にまとまらなくて撃沈した。文を書くのが大好きなので「序章」だけかっこよく書いてみた。でも、その後がまとまらず「序章だけだね」と言われた。作文は得意なので2日で間に合うと思っていたけど、課題範囲の関係性が複雑すぎて徹夜でも全然間に合わず泥沼にはまった。とにかく毎回時間がかかっていつもクタクタ。

これらの一見雑多なケースを見直し、おおもとを辿ってみると根は意外に単純のようです。生徒たちは「これさえ覚えれば100点～穴埋め」的な反射的な問題については、たくさん解いてきて慣れてしています。しかし、自分の力で、課題を設定し、情報を集め、構造を分析し、論理的にまとめ上げる「レポート作成」という、粘り強さを求められる一連の作業では初心者に近いのです。同じく先生たちもそれを教えることには慣れていません。

この冊子では、複雑に見えるレポート作成の全体像を見える化しました。また、「レポート作成でうまくいかないケース」を8つ取り上げ、生徒たちの得意技を

最大限に使いながら **チェンジ!!** することで **グッドジョブ!!** になるような提案をしています。この冊子をお役立ていただき、レポートを楽しく、深く、有意義に **チェンジ!!** してください。

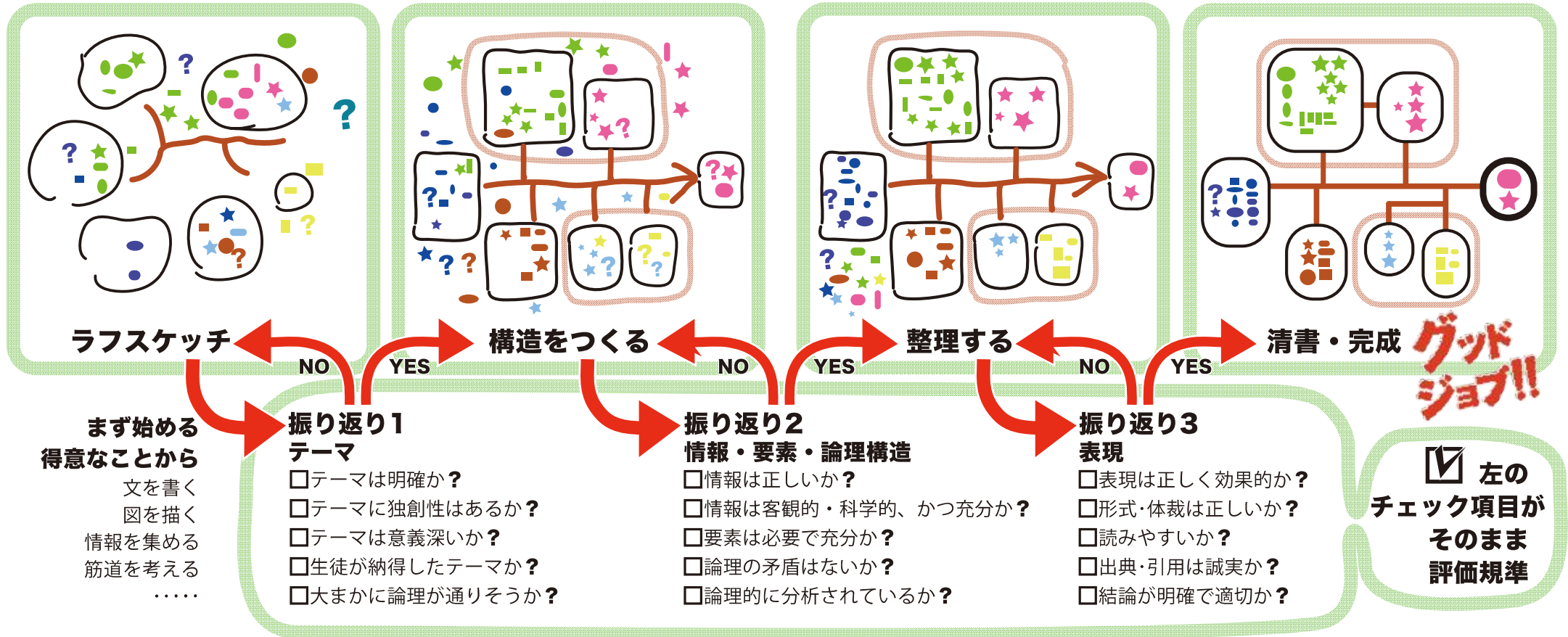
もくじ

		
	レポート作成の全体像	…4
ケース1	意味不さん レポートなんて意味ないよ 	…6
ケース2	始めないさん まだまだ余裕2日で書ける 	…8
ケース3	コツコツさん 範囲広すぎ 手がつかず 	…10
ケース4	心配さん これだけ集めて まだ不安? 	…12
ケース5	あるべきさん 私の筋が絶対だ 	…14
ケース6	細かすぎさん 筋つかめない まとまんない 	…16
ケース7	ひらめきさん ひらめきすぎて破綻する 	…18
ケース8	流されさん 文が湧き出し文字数アウト 	…20
	あとがき	…22

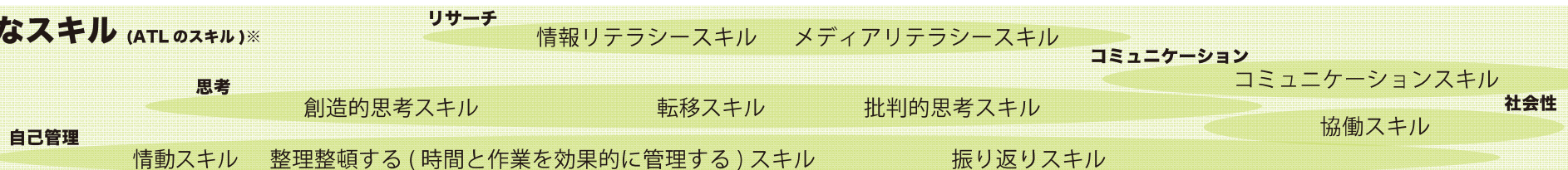
レポート作成の全体像

レポートが完成するまでの工程は一方向に流れるだけではありません。振り返りによって欠点や矛盾や不足などに気づけば、前の作業に戻ります。その繰り返しが完成度の高い価値あるレポートをつくります。振り返りの質がレポートの質と価値を決定します。振り返り 1～3 のチェック項目はそのまま評価規準として生徒たちの自己評価に使えます。

生徒と先生は下の図を見ながら「どこが得意で、どこは苦手?」「時間がかかるのはどれ?」と話し合い、生徒の個性を把握します。次にその個性に応じた方法とスケジュールを定め、優先順位を明確にすることでレポートの質を高めます。「必要なスキル」はレポート作成の過程で身につけるべきもので、生涯自律的に学ぶための基本的なスキルです。



必要なスキル (ATLのスキル)※



※国際バカロレア (IB) における ATL(Approaches to Learning) より引用。

ケース1 意味不さん レポートなんて意味ないよ

大体レポートなんて意味ないよ

テストができればいいじゃん

考えるのめんどくさい

問題解くのは得意だし……

レポートに意義を見いだせない



なぜ? どうして? どうなっているの? 世界は? の数だけ進歩してきたんだ



????? が世界を変えていく

良い問いは問題を解くよりも大事だったりする

さっさと片付けたいのに? めんどくさい? ない?

それも? だよな? をたくさん

?? 受検に使える? なんてでもいいの? じゃあ、でもOK やってみよう!

? は自分自身も世界も変える

グッドジョブ!!

チェンジ!! やって見た

眠くなるのはなぜ? 色に意味はある? レポートって意味ある?

どうしておなか減るのかな?

ケンカはどうしてなくならない?

文字ってなぜすごい力があるの?

おおっ!! いくらでも出てくるおもしろい

じゃあ今回の課題の“植民地主義”で? を出してみよう

俺って天才?

なぜ? 何故?



意味不さんはレポートを書く意義が理解できませんでした。要領がよいのでテストはバッチリ。レポートも適当に既存の文章の切り貼りで仕上げていました。点数もまあまあです。

ところが素朴な疑問を持ち始めると、全てが新鮮に見え始め、物事を深く本質まで探究し、未来にまで目を向け、さらに、レポート作成を通して「私の役割は何か?」とまで考えるようになりました。

ケース2 始めないさん まだまだ余裕2日で書ける

2



まだまだ余裕
2日で書けるさ

pi!! Pi!!

根拠のない
自信は
どこから？

好きな
ことから
手をつけよう



始めることが
とっても大切

まずは
10分

好きなこと？

10分で
いいの？

5分でも
いいよ

5分じゃ
短すぎないかな？

始めると
こころの
スイッチ入る

グッド
ジョブ!!

得意なことから
10分間

チェンジ!!

好きなカードで
要素を
整理

今日は
このくらいで
OK!!



前日の夜

徹夜
しないで
終わっちゃった～

おっ
通学途中に
ひらめいた



前日の夜

イライラ

出来が
悪いよ～

また
徹夜～
眠いし
まとまらないし

あああ～
とにかく
間に合えば
いいや

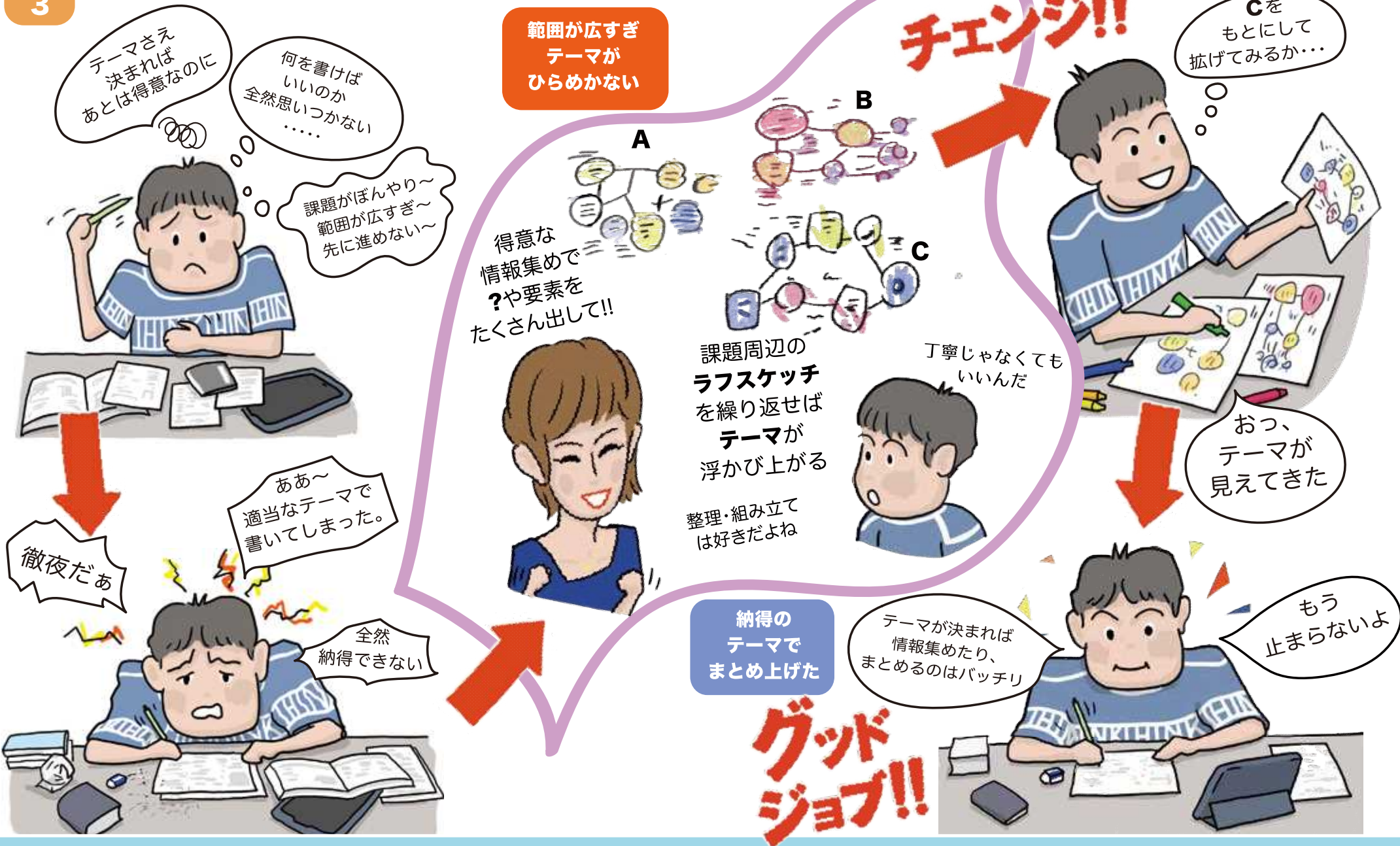


始めないさんはギリギリまで手をつけずに、前の晩は徹夜になることもしばしば。課題が複雑になると一夜漬けではとても間に合いませんでした。

そこで、好きなカードづくりを10分…ラフスケッチに10分…と得意な事から手をつけてみると、スイッチが入り、頭の隅でいつでも考えられるようになりました。通学途中のひらめきで独自性のあるレポートに仕上がります。

ケース3 コツコツさん 範囲広すぎ手がつかず

3



10 コツコツさんは情報収集や論理の組み立てには得意ですが、最初にテーマを直感的に決めるのが苦手。ぼんやりとした広い課題範囲を示されると途方に暮れてしまい、どこから手をつけて良いのかわかりませんでした。

しかし、課題範囲の構成要素を何種類かラフスケッチに描いてみると、自分の考えも整理され、書くべきテーマが見えてきました。その後の作業は大得意。一気に仕上げることができました。

ケース 4 心配さん これだけ集めてまだ不安？

4



足りない要素が少しでもあると進めない

要素を
コンセプト
で整理

例えば経済という言葉でつかむ



チェンジ!!

コンセプト
CONCEPT

まとめて一緒にしっかりと

つかむ

ここが足りない!!

逆にこちらは要らない!!



整理されて見えて来た!!

全体がだんだん分けられて見やすくなる

ああ～集めすぎ何が何だかあああ



安心して組み立てられた

全体をまとめて見直して

足りない要素はなくなった～



グッド
ジョブ!!

心配さんは情報収集が得意。でも、足りなくなるのが不安で、大量の情報を集めすぎてしまい、整理整頓も、まとめることもできずに、パンクすることもしばしば。

ところが「コンセプト」により情報を選択・整理・整頓すると、不要な情報や足りない情報があぶり出され、焦点が絞られ、無駄な時間を使わず完成度の高いレポートを提出することができました。

ケース5 あるべきさん 私の筋が絶対だ



思い込みが強く凝り固まる

バランス+クリティカルシンキングだよ

チェンジ!!

反対意見や別の考え方も平等に扱う

どんな人も説得できる理屈

思い込みを排除自分を客観視

自分を客観視...

強引ではなく誰にでも納得するように証明すべきなんだな



ギリギリまで考え抜く力!!

科学的客観的な検証



思い込みは排除すべきだった常に客観的うん、これで説得力のあるものになった。

客観的・科学的な視点を身につけた

グッドジョブ!!



あるべきさんは独りよがりの自信家。「こうあるべきだ」と思い込むと反対の意見や情報を受け入れず、偏った結論を導き出してしまいう傾向がありました。

しかし、科学的・客観的に Critical Thinking...すると「思い込みや独断を排除すべきだ」という考え方が身につく、誰にでも納得できるバランスのとれたレポートを書くことができるようになりました。

ケース6 細かすぎさん 筋つかめない まとまんない

筋つかめない
まとまんない

情報は集めた
~けど~

細かい
ところが
気になって

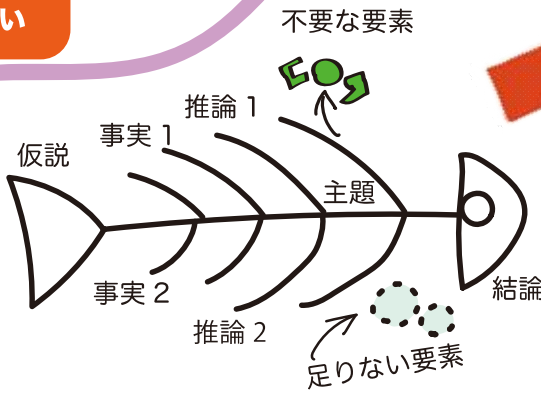
細かいところが
気になって
まとまらない

いいこと
書いてある所もある
けど、結局
何を言いたいのかわ
つかめないよ

やっぱ
そうだね~
自分でも
そう思う

要素を
カタ (FOAM)
で構造化する

カタは
いろいろ
あるよ



例えば
フィッシュボーン*
というカタに
当てはめると

カタが
あるのか~

タイヤキか?...

カタで全体を
まとめることが
できた

グッド
ジョブ!!

チェンジ!!

これは
足りない

これは
要らないね

これとこれ
を入れ替えよう

流れすっきり
全体がしっかり

分かり
やすい!!

*「フィッシュボーン」はもともと、1つの現象の原因を特定するための「特性要因図」として考案されたもので、理解しやすいところから論文などの構造にも応用されるようになった。魚の骨の形をしていることからそう呼ばれる。

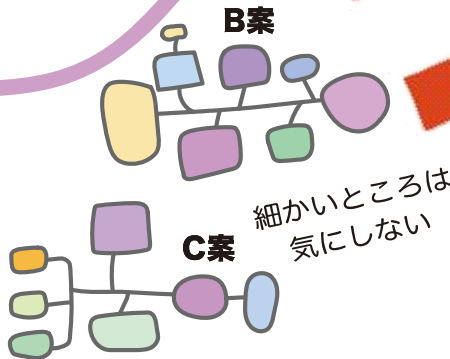
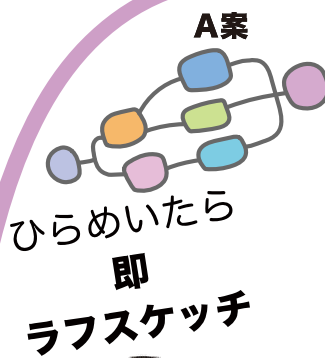
細かすぎさんは細かいことがいつも気になり、大まかな全体像を把握するのが苦手。主題と細部が混在していて、自分でも何が言いたいのかわからなくなることがありました。

しかし書きたいことを「カタ」に当てはめると、構造が明確になり、不要な要素や足りない部分が整理され、論理の筋もきれいに通り、誰にとっても分かりやすいレポートになりました。

ケース7 ひらめきさん ひらめきすぎて破綻する



頭が働きすぎて
落ち着かない



チェンジ!!



どの案がおもしろい?
拡がりがある?
まとまりやすい?

ひらめいたそのときにざっとまとめるのか

比べてみて
自分の中で
絞り込む

集中して
効率よく
できた

筋もきちんと
通ってる

**グッド
ジョブ!!**



ひらめきさんはアイデア豊富。いつも「こうしたら?」「ああしたらいいんじゃない?」と考えるのが得意。でも、感覚に任せすぎて、論理が破綻したり、盛り込めない要素が残ることも多々ありました。

しかし「ひらめいたら~即ラフスケッチ」を実行してみると、多くのラフスケッチが生まれ、その中から一番納得できるものが絞り込め、あとは迷わず集中して完成させることができました。

ケース 8 流されさん 文が湧き出し文字数アウト

8

文筆家型で書くことが楽しすぎる

文章を書き出すと止まらない書くのは得意で楽しい~

好きなだけ書いて!

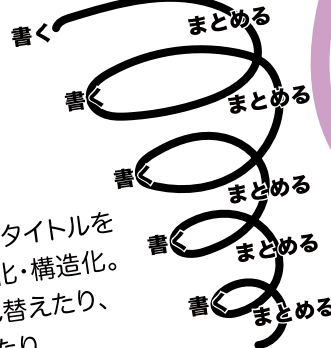
部品化してまとめればOK

チェンジ!!

一枚の紙に一つの内容をどんどん書く

それにタイトルをつけてまとめて...並べ替え

(書く-まとめる)の繰り返し



文章に小さなタイトルをつけて、部品化・構造化。部品を入れ替えたり、付けたり、削ったりして、全体を調整

書くときとまとめるとき頭を切り換える?

前日の夜

頭が働かないからまだ書き続けてる~

文字数オーバーなんだけど

頭を切り換え構造化もできるように

前日の夜

たくさん書いて満足

エッセンスを抽出

グッドジョブ!!

濃い文章ができたし論理も通った...

たくさん書いた

流されさんは文章を書くのが好きで得意。感性豊かな文章は友達からも絶賛されています。でもつつい書きすぎて、文字数制限におさまらず大事なことを盛り込めないこともありました。

しかし、文章を部品化して構成することを身につけると、書く時とまとめる時の頭を切り替えることができるようになり、つながりもスムーズ、論理もしっかり通るようになりました。

あとがき

文書は時空を超えたコミュニケーションです。カエサルによるガリア戦記は 2,000 年前のローマ帝国の戦いを生き活きと描き出し、紫式部の源氏物語は 1,000 年前の宮廷のこころ模様を細部にわたって語りかける。さまざまな言語によって書かれた文書は、今や高速に全世界に行きわたり、瞬時に各国語に翻訳され、世の中を刻々と変えていきます。

現実の社会ではどの分野においても論理的なレポートが要求され、学位論文・企画書・上申書・計画書・提案書など、さまざまな書類がつくられ、それが社会を動かしていくエネルギーになっています。しかし、日本の中学、高校の教育ではそのような論理的なレポート作成の仕組みを教育し、トレーニングする機会は少なかつたかもしれません。

「レポート」には「カタ」があります。生徒たちはそのカタを示されずに「自由に」書くことを求められることが多く、できれば生徒たちの資質に左右されてきました。しかし、誰でも基礎的なスキルの習得とトレーニングによって、論理的で説得力があり、コミュニケーションや表現の優れたレポートが書けるようになります。

さて、この冊子は公立の中高一貫教育校としては日本初の国際バカロレア(以下 IB)の認定校である市立札幌開成中等教育学校の実例をもとに生まれました。IB プログラムにおける ATL^{※1} は、生徒たちが生涯自律的に学び続けるために必要な知識とスキルの習得をサポートします。4-5 頁に示したようにレポート作成はまさに ATL のスキルを具体的に理解し、身につける最良の機会です。彼らは入学してすぐにレ

^{※1} ATL=Approaches to learning: 学び方を身につけるための 10 のスキルが 5 つのカテゴリーに分類されている。コミュニケーション / コミュニケーションスキル - 社会性 / 協働スキル - 自己管理 / 整理整頓 (時間と作業を効果的に管理) するスキル・情動スキル・振り返りスキル - リサーチ / 情報リテラシースキル・メディアリテラシースキル - 思考 / 批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル
^{※2} グループワークについては『教室で使えるグループワーク』(2017 年発行) を合わせて参照して下さい。

ポート作成の課題を出され、悪戦苦闘します。冊子の中のそれぞれのケースは彼らへのインタビューをもとにして、現実に関り、悩み、苦労した内容をそのまま表現しました。そしてその状態から抜け出す方法を示しました。生徒たちはレポート作成のトライ&エラーを通して生涯にわたって学び続けられる ATL のスキルを身につけていくのです。

誠実で科学的で客観的で論理的なレポートは非常に強力です。世の中をスムーズに動かし、個人や社会のストレスを減らし、コミュニケーションを円滑にし、引用が繰り返され、時には大きなうねりとなり未来を拓く革命的な発見や発明につながっていきます。つまり、時空を超えたグループワークです^{※2}。逆にバランスを欠き、誠意のない独りよがりのレポートは世の中をギクシャクさせ、社会のストレスを増大させ、コミュニケーションを断ち切り、人々を分断し、未来までも混乱させてしまいます。

この冊子を使って生徒たちが、伝える価値のあるレポートを書く力をつけ、現実の世界をより良い方向に動かしていくように願っています。

平成 31 年 (2019 年) 3 月

札幌市教育委員会

